

横浜市立横浜商業高等学校
スポーツマネジメント科

基本計画

平成24年8月

横浜市教育委員会

目 次

1 設置の目的	1
2 設置の基本的枠組み	
(1) 課 程	
(2) 学 科	
(3) 入学定員	
(4) 設置予定	
3 教育理念・育てたい人物像	
(1) 教育理念	
(2) 育てたい人物像	
4 教育課程について	
(1) スポーツマネジメント科教育課程編成の基本方針	2
(2) 教育課程表	4
5 その他の特色ある教育活動	5
(1) 部活動との関連	
(2) 地域との連携	
(3) 高大連携	
(4) 外部機関との連携	
6 入学者の選抜方針	6
(1) 募集の区分	
(2) 入学定員	
(3) 通学区域	
(4) 選考方法	
7 施設・設備整備基本計画	
(1) 野球場等について	
(2) トレーニングルームについて	
8 教職員・指導者等について	7
(1) 教職員の人事配置	
(2) 指導者等について	

1 設置の目的

横浜市は平成22年12月、「横浜市中期4か年計画 2010～2013」を策定した。その施策13「スポーツや学びで育む豊かな暮らし」では、市民が豊かな生活を送るために市民の健康作りの観点から、継続的な運動習慣を身に付けることや、それぞれの体力や年齢、技術に応じて身近な場所（地域）でスポーツに親しむことの必要性が示されている。また同時に、スポーツが観戦する人に夢や感動を与えるという側面などから、市民参加型のスポーツイベントの充実や横浜におけるスポーツを活性化させていく方向性が示されている。

また、平成23年1月に策定した「横浜市教育振興基本計画」では「重点政策6」として「魅力ある高校教育の推進」を掲げ、その中で、「時代のニーズに対応した教育内容の見直しや専門コースなどの設置などにより、『生徒一人ひとりの可能性の伸長・希望する進路の実現』に向けて、魅力ある高校づくりを推進します。」としている。この基本計画を具体的に推進するために、同年3月に「横浜国立高等学校 教育振興プログラム」を策定し、横浜商業高校にスポーツマネジメント等を学ぶ学科を設置することとした。これにより、**地域における生涯スポーツ振興の担い手づくりと横浜におけるスポーツの活性化に貢献するとともに、スポーツの豊かな体験を通し、スポーツや健康分野とスポーツを支えるマネジメントに関して専門性があり、将来の社会的・職業的自立に向けた資格や技術を習得した人物の育成**を目指すものである。

2 設置の基本的枠組み

- (1) 課 程 全日制の課程
- (2) 学 科 専門学科・スポーツマネジメント科（商業に関する学科）
- (3) 入学定員 1学年1学級 40人
- (4) 設置予定 平成26年4月

3 教育理念・育てたい人物像

(1) 教育理念

スポーツや健康に関する学習や実践的な活動を通して、科学的な知識・理解を深めるとともに、スポーツとそのマネジメントにかかわる能力をはぐくむ。

(2) 育てたい人物像

- ア グローバルな視野をもって、スポーツや健康分野のビジネスの振興発展に寄与する人物
- イ 生涯にわたってスポーツの振興発展に寄与する人物

4 教育課程について

(1) スポーツマネジメント科教育課程編成の基本方針

ア 目標

- (ア) 大学進学などの進路希望を実現させる学力を育成する。
- (イ) **体のつくりや心の仕組み**、健康、スポーツ、トレーニングに関する知識を習得し、**科学的かつ安全にスポーツ技能を高める力を育成する。**
- (ウ) スポーツを振興させ支援していく**スポーツビジネスについての基礎的な知識**を習得する。
- (エ) 将来の社会的・職業的自立に役立つ**資格取得・検定合格に必要な知識・技能**を習得する。
- (オ) スポーツを通して課題を探究して解決し、国際社会に貢献しようとする意欲と態度を養う。

イ 教科・科目

上記アの目標を実現するために、次の科目を設置する。

- (ア) 大学進学を視野に入れた学力の定着に必要な普通科目を設置する。
- (イ) スポーツマネジメント科の専門科目を、30～36 単位程度設置する。

<スポーツマネジメント科専門科目>

	科目名	単位数	内容概要
スポーツ科学分野	スポーツ科学Ⅰ	2 単位	解剖生理、トレーニングの理論など、体のつくり・心の仕組み等の基礎的な理論を知るとともに、科学的で安全にスポーツ技能を実践する。
	スポーツ科学Ⅱ	2 単位	スポーツ栄養、解剖生理、トレーニングに関する理論など、怪我や疾病の予防、競技力を向上させる理論を学習し、効果的で安全なスポーツ技能の実践をする。
	スポーツ科学Ⅲ	4 単位	スポーツ生理、スポーツ栄養、コーチング、トレーニング理論など、スポーツを主体的に実践するための指導法や理論を学習し、専門的な学習につなげる。
	スポーツ実技	4 単位	専門的な指導を受け、専門とする種目の競技力や運動能力の向上を図る。
スポーツビジネス分野	スポーツマーケティング	2 単位	マーケティングの意義や役割を理解し、スポーツビジネスの事例により、特徴や在り方について考察する。
	課題研究	2 単位	スポーツビジネスに関する課題を設定し、調査・研究を行い、その成果を効果的に発表する。
	総合実践	3 単位	商業の各分野で得た知識と技術をスポーツビジネスにおいて応用、実践する。
	資格取得・検定合格を目指す科目	各 2～4 単位	ビジネス基礎、情報処理、簿記、財務会計、ビジネス情報、電子商取引、など

ウ その他の科目・講座

- (ア) より専門的な学習を進めるために、横浜市スポーツ医科学センターなどの機関や大学と連携して特別講座を行う。
- (イ) 集中英語研修として「イングリッシュ・キャンプ」を実施し、英語を活用してグローバルに活動できる人間を育てる。
- (ウ) 海外の先進的なスポーツ運営やスポーツマネジメントをその現場で体験的に学習するために海外研修などの機会を検討する。

エ 特別活動

- (ア) ホームルーム活動や家庭との連携などにより食育を進め、食に対する啓発活動を行う。
- (イ) 地域の行事などで小学生・中学生と交流するなど、スポーツを通して社会貢献する態度を育成することをねらいとして特別活動を行う。

オ 総合的な学習の時間

- (ア) スポーツマネジメント科の総合的な学習の時間は、1年次の総合的な学習の時間(YSMプログラム)と2年次の「課題研究」とし、スポーツマネジメント科の課題解決的、実践的な学習の中心として位置付ける。
- (イ) 1年次の総合的な学習の時間(YSMプログラム)では、スポーツ科学Iの学習内容と関連させ、スポーツと生徒自身の関わり方をキャリアデザインの視点から考え、専門的な知識をいかして希望を具体化していく学習の導入とする。

(2) 教育課程表

	1年	2年	3年		
1	国語総合	現代文B	現代文B	1	
2				2	
3				3	
4	現代社会	世界史A	日本史A	4	
5				5	
6	数学 I	数学A	〈普通科目選択科目〉	6	
7				7	
8				8	
9	科学と人間生活	〈理科選択〉 化学基礎・生物基礎	〈普通科目選択科目〉	9	
10				10	
11	体育	体育	体育	11	
12		保健		コミュニケーション英語Ⅲ	12
13		芸術			13
14	保健	14			
15	コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語Ⅱ	〈商業科目選択科目〉 ビジネス経済応用・経済活動と法	15	
16				16	
17				17	
18	ビジネス基礎	家庭基礎	電子商取引	18	
19		財務会計 I	スポーツマーケティング	19	
20				20	
21	ビジネス情報			スポーツ実技	21
22		22			
23		スポーツ実技	スポーツ科学Ⅲ		23
24	24				
25	25				
26	簿記	スポーツ科学Ⅱ	総合実践	26	
27				27	
28				28	
29	スポーツ科学 I	課題研究 スポーツ・プロジェクト・スタディー	総合実践	29	
30	総合的な学習の時間(YSMプログラム)	スポーツ・プロジェクト・スタディー	LHR	30	
	LHR	LHR	LHR		

*今後の検討により、一部変更することもある。

5 その他の特色ある教育活動

(1) 部活動との関連

- ア 部活動をスポーツマネジメント科で学習した内容の実践の場として位置づける。
- イ スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲやスポーツ実技の講師陣は、学習した内容が運動部活動において適切に実践されるよう、部活動においても指導を行う。
- ウ 硬式野球部をはじめとする運動部活動の顧問とスポーツ科学分野を指導する講師陣が、その指導法などについて連絡、協議し、運動部活動におけるトレーニングや練習内容の向上につなげる。

(2) 地域との連携

- ア 卒業生の協力や地域との連携により、社会的・職業的自立に向けてのキャリア教育を推進する。
- イ 地域の小学校・中学校、自治会などのスポーツイベントに参加し、その運営に協力し、企画を提案するなどの活動を行い、学習が地域で活用される機会を設ける。

(3) 高大連携

スポーツマネジメント関連のプログラムをもつ大学と連携して、スポーツマネジメント専門科目の時間や総合的な学習の時間に特別講座を行うなど、専門性を高める取組を展開する。

(4) 外部機関との連携

- ア 外部のアドバイザーや横浜市スポーツ医科学センターやその他の医療機関等と連携して、スポーツ医科学に基づいた競技力向上の取組を展開する。
- イ スポーツ関連企業やスポーツ施設等と連携し、スポーツマネジメント専門科目、総合的な学習の時間及び特別活動において、体験的な活動を展開する。

6 入学者の選抜方針

(1) 募集の区分

専門学科・スポーツマネジメント科（商業に関する学科）として募集する。

(2) 入学定員

1 学年 1 学級 40 人

(3) 通学区域

神奈川県内全域とする。

(4) 選考方法

次のア～エの結果を全て用いて選考する。

ア 調査書の評定

イ 学力検査 5 教科

ウ 面接

エ 特色検査

運動に関する能力・適性を把握するための**実技検査**を実施する。

7 施設・設備整備基本計画

(1) 野球場等について

校舎改築以後整備が行われていない野球場及びその付帯施設を改修し、夜間照明を設置する。

(2) トレーニングルームについて

科学的な理論に基づいた、運動能力を高めるためのトレーニングを行うことができる機器を備えたトレーニングルームを改修、整備する。

8 教職員・指導者等について

(1) 教職員の人事配置

科学的トレーニング、栄養、メンタルトレーニングなどスポーツマネジメント科専門科目の指導に必要な非常勤講師を配置する。

(2) 指導者等について

ア 専門的な高い見地からの指導、助言を得るために教育顧問を委嘱する。

イ 効果的なトレーニングを日常的に指導するため、指導員としてのトレーナーを配置する。